

地域研究コンソーシアム年度集会出现報告

蔡 毅

出張先：京都

期間：2016年11月5日

2016年11月5日（土）、京都大学稲盛財団記念館で開催された地域研究コンソーシアム年次集会出现に出席した。

地域研究コンソーシアム（Japan Consortium for Area Studies, 以下JCAS）は、地域研究に携わる日本の研究・教育機関、学会、市民団体などによって構成される組織で、北海道大学スラブ研究センター（現北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター）、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、京都大学東南アジア研究所（現京都大学東南アジア地域研究研究所）、国立民族学博物館地域研究企画交流センター（民博地域研）の4組織を中心に2004年に設立された。2006年には事務局が京都大学地域研究統合情報センター（現・京都大学東南アジア地域研究研究所）に移された。大学・学会やNGO・NPOを含む多様な地域研究関連組織が加盟しており（2016年度11月の時点で加盟組織数は98）、年次集会出现シンポジウムの実施、和文雑誌『地域研究』の編集、次世代研究者育成のための次世代支援ワークショップの公募などの活動を行っている。また、地域研究方法論研究会などの研究会を開催している。

地域研究コンソーシアムの活動は、特定地域に対する理解を深める基礎研究と、現代世界における今日的課題に対する学術研究を通じた取り組みという2つの方向があり、さらに次の5本の柱に分けられる。1. 地域研究の設計（加盟組織に所属するさまざまな研究組織や研究者の協力によって、地域研究に関わる情報資源を共有し、地域研究を企画するとともに方法論を講ずること）。2. 地域研究の実施（加盟組織を横断して実施される研究活動。年次集会出现シンポジウムや次世代支援ワークショップがある）。3. 学界との連携（日本学術会議や地域研究学会連絡協議会と連携して研究活動を進めること）。4. 社会への還元（地域研究の社会的活用のために社会連携部会が置かれ、活動の重点は自然災害や紛争における人道支援との連携）。5. 活動内容の発信（ポータルサイトを構築しメールマガジンを発信、さらにニューズレター、『地域研究』などの刊行およびコンソーシアム賞、地域研究の発展に寄与する優れた活動への授賞）。

上記のことを鑑み、当センターの創設理念はJCASの研究活動に十分合致し、加盟すれば当センターの成長に大いに寄与し、地域研究の領域でさらに発展していく空

間を獲得できると2015年度のセンター会議で議決した。そこで、諸手続きを経てJCAS 理事会に認められ、当年度末、正式に加盟組織の一員となった。

2016年11月5日（土）、私はセンターの代表として、京都大学稲盛財団記念館で開催されるJCASの年次集会に出席し、同じく新規加盟の琉球大学国際沖縄研究所長藤田陽子先生とともに挨拶をした。その後、塩谷晶史運営委員長の活動報告、「次世代支援ワークショップにて」4名の研究者の報告を聞き、また第6回地域研究コンソーシアム賞授賞式および午後の一般公開シンポジウム「2050年の世界と日本——地域研究の推進体制」にも出席した。そこでJCAS加盟の意義をさらに認識し、JCASが提供してくれた舞台で一層活躍できるように努力したいと決意を新たにした。